

平成27年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

# 1. 調査の概要

## (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## (2) 調査の対象

小学校6年生，中学校3年生

## (3) 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）
  - ・主として「知識」に関する問題（国語A，算数・数学A）
  - ・主として「活用」に関する問題（国語B，算数・数学B）
  - ・理科
- ② 質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

## (4) 調査の方式

悉皆調査

## (5) 調査期日

平成27年4月21日(火)



## (6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	12校	12校（100%）	418人
中学校	7校	7校（100%）	411人

## 2. 教科に関する調査結果

### 1 概要について

小・中学校とも良好な状況です

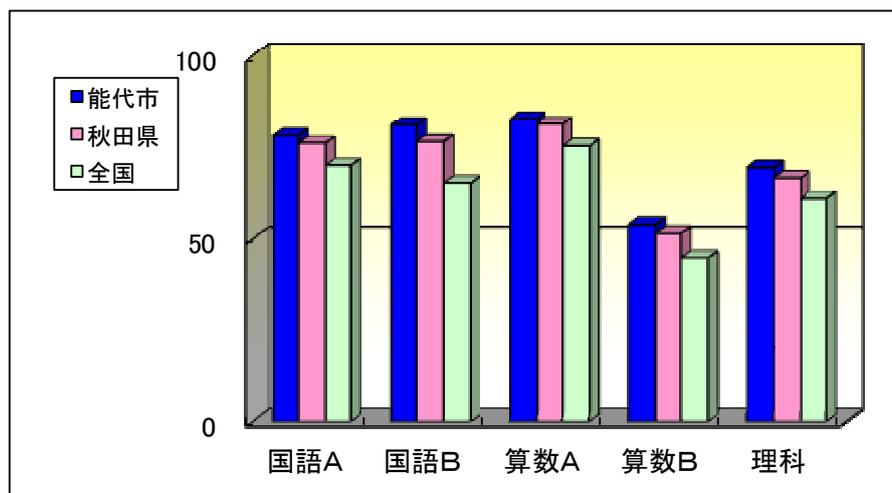
#### (1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・B及び理科の全てで全国平均を大きく上回っています。

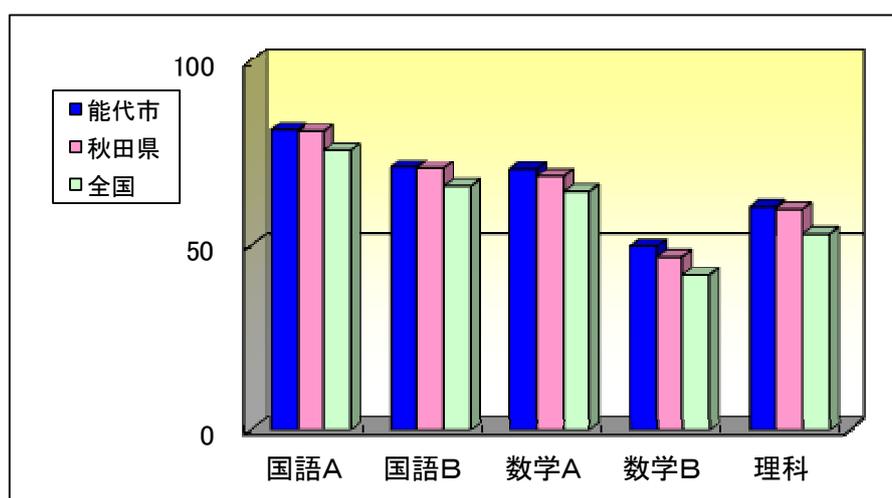
#### (2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・B及び理科の全てで秋田県平均を上回っています。特に小学校国語B大きく上回っています。

#### (3) 小学校6年生平均正答率

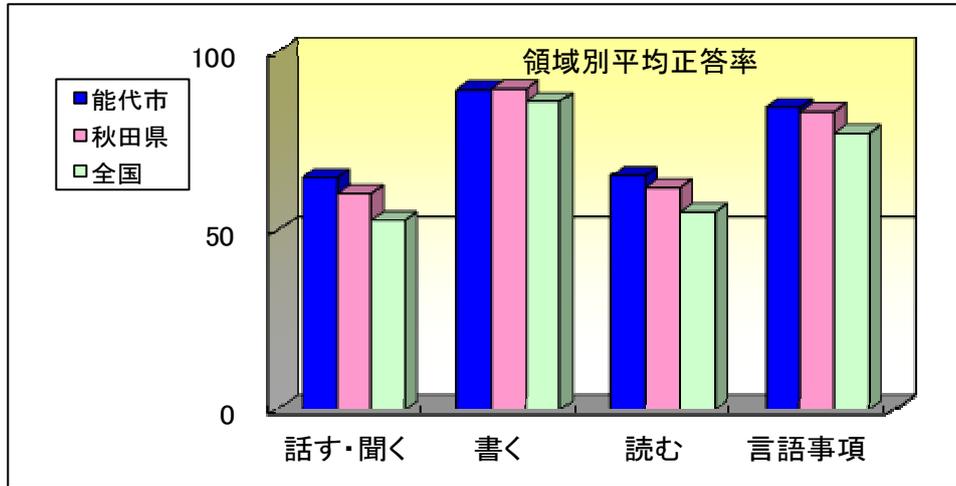


#### (4) 中学校3年生平均正答率



# 3. 教科に関する調査結果(小 国語A)

## 1 小学校国語Aについて(主として知識に関する問題)



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中11問において、全国及び秋田県平均を上回っています。



漢字を正しく読むこと・書くこと、新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉えることなどの問題が特に良好です。

## 指導改善のポイントとして学校での取組



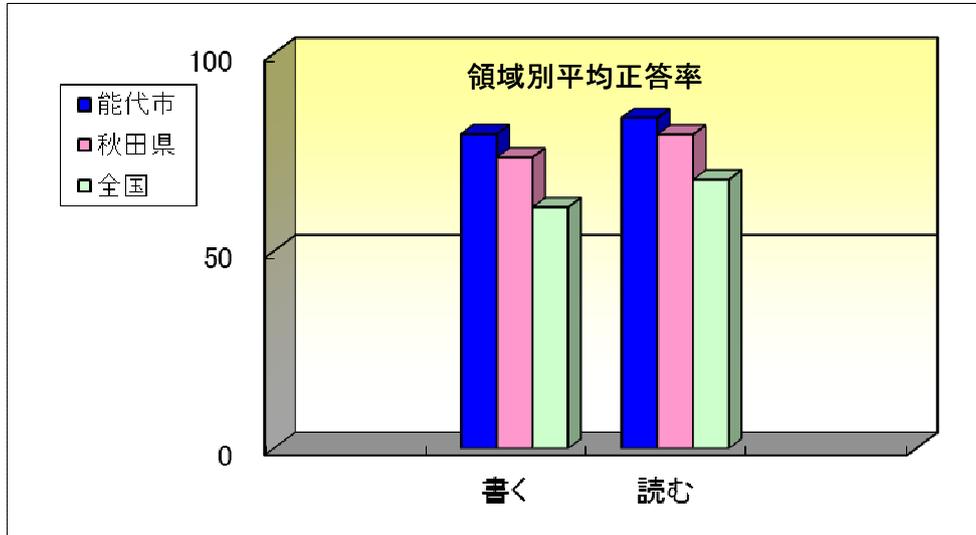
全国及び秋田県平均を下回る正答率だったのは、文を構成する主語と述語の照応関係を捉える設問等でした。

「私は、国語の学習で感想文を書いた。」 →  
「何は(が)～どうした」

低学年の学習(主語と述語との関係に注意すること)を受け、文がどのように組み立てられているかを理解することが大切。「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について繰り返し指導することが大切です。

# 3. 教科に関する調査結果(小 国語B)

## 1 小学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全ての設問（10問）において、全国及び秋田県平均を上回っています。



特に、「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く」「文章と図を関係付けて、自分の考えを書く」問題は、全国平均・秋田県平均を大きく上回りました。

## 指導改善のポイントとして学校での取組



全10問中の中では、正答率が低かったのは、「目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける」問題でした。

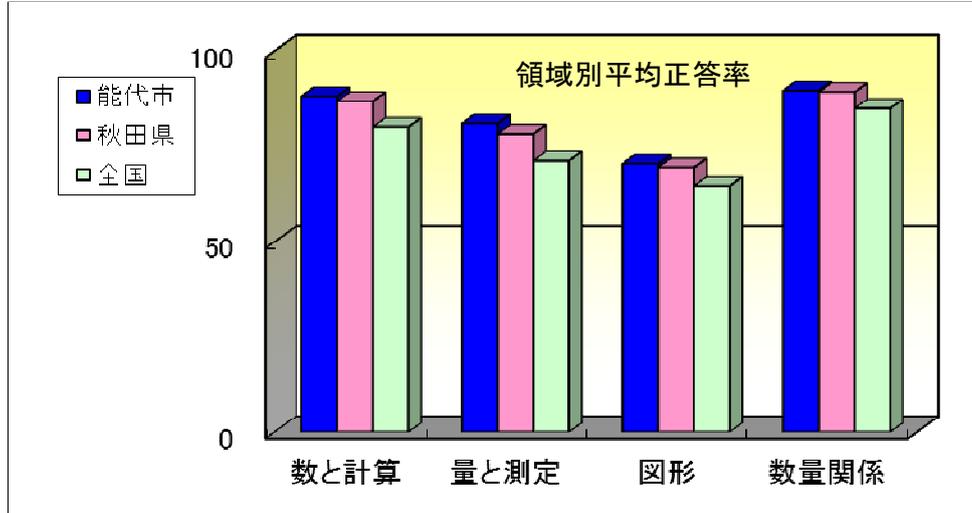
「大見出しはどのような効果をねらって表現を工夫しているか」



中学年の「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」を受けて、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることを、繰り返し指導することが大切です。

# 3. 教科に関する調査結果(小 算数A)

## 1 小学校算数Aについて (主として知識に関する問題)



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

17問中12問において、全国及び秋田県平均を上回っています。

よかったです

特に、分度器の目盛りを読み、 $180^\circ$ より大きい角の大きさを求める問題は、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

おつこしです

ほとんどの児童が正解だったものの、全国平均よりも正答率が低かった問題が1問ありました。

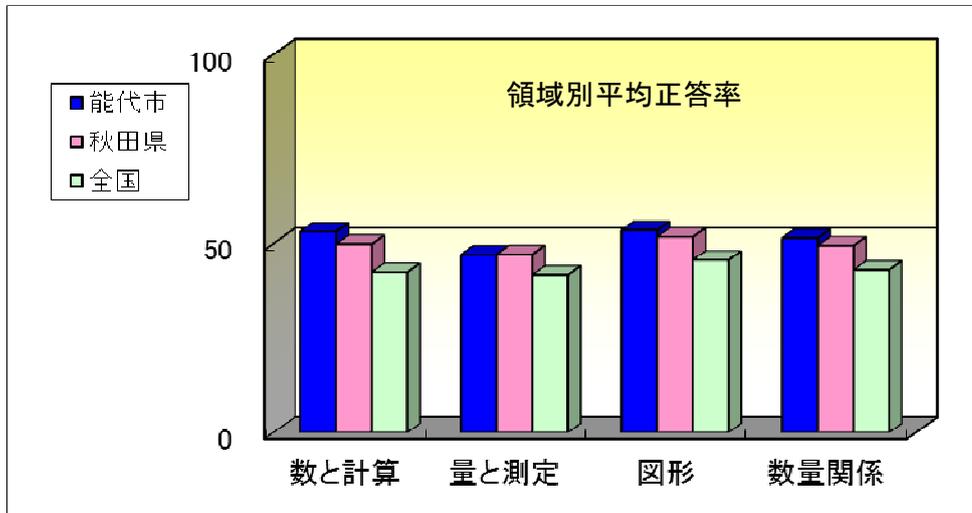
$$「28+72」$$

## 指導改善のポイントとして学校での取組

このような計算の場合、具体的な場面に基づいて計算の意味を理解することが大切です。また、計算の仕方を考えたり確かめたりするときなどに、計算の結果がおよそどのくらいの大きさになるか、何桁になるかを見積もる習慣を身に付けさせることも大切です。

# 3. 教科に関する調査結果(小 算数B)

## 1 小学校算数Bについて（主として活用に関する問題）



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

13問中12問が、全国及び秋田県平均を上回っています。



特に、全国及び秋田県平均を大きく上回っていたのは、「四捨五入して千の位までのおよその数にして計算する」問題です。



秋田県平均を下回っていた問題が1問ありました。

「トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、その時の代金を書く」

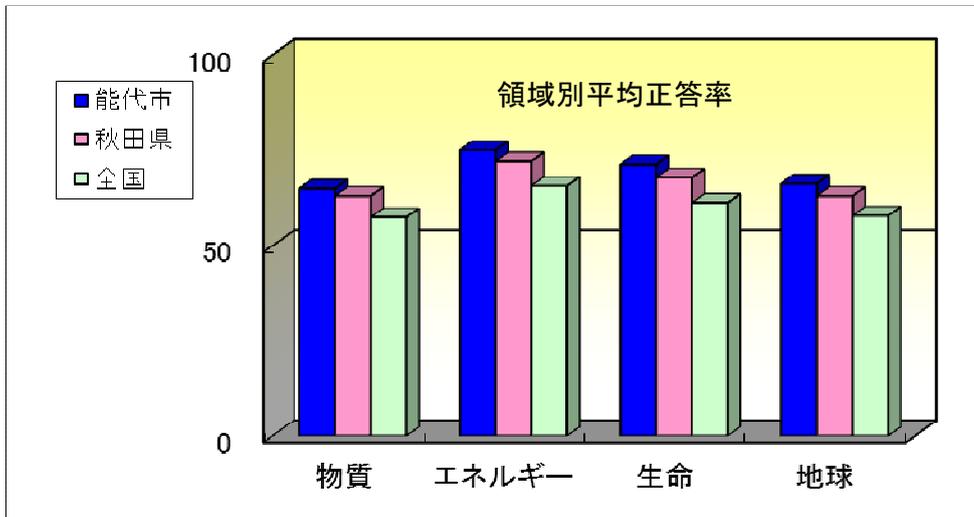


## 指導改善のポイントとして学校での取組

具体的な場面を用意して、児童が見いだせるようにすることが大切。そして、どのようにすると比べることができるのか、どのようにして数値化したらよいかについて考えられるように指導することが重要です。

# 3. 教科に関する調査結果(小 理科)

## 1 小学校理科について



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国並びに秋田県平均を上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

24問中22問が、全国及び秋田県平均を上回っています。2問が全国平均は上回っているものの、少だけ県平均を下回りました。



特に、全国及び秋田県平均を大きく上回っていたのは、「振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、その理由を説明する」問題でした。



秋田県平均を1.2%下回っていた問題は次の問題です。

「顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ」

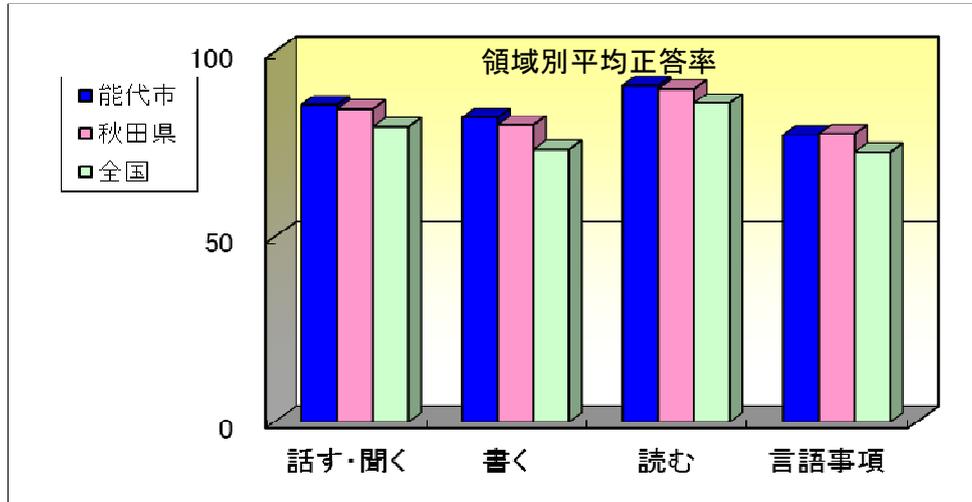


## 指導改善のポイントとして学校での取組

池や川などの水を採取し、顕微鏡を使って水中の小さな生物を観察することによって、魚は水中にいる小さな生物を食べて生きていくことをとらえることができます。そのような発見を何度も味わわせたいと思います。

# 3. 教科に関する調査結果(中 国語A)

## 1 中学校国語Aについて(主として知識に関する問題)



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### (1) 領域別平均正答率の結果について

3領域において良好な状況です。

言語事項において、秋田県平均を0.3%下回りました。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

33問中、全国平均を下回ったのは、2問。

秋田県平均を下回ったのは、9問でした。



33問中最も低い正答率の内容です。

「どてをぐるっとまわって、  
どんどん正門を入れてくる  
と」  
この表現の工夫で適切なもの  
は。

- 1 擬態語
- 2 倒置法
- 3 体言止め
- 4 直喩

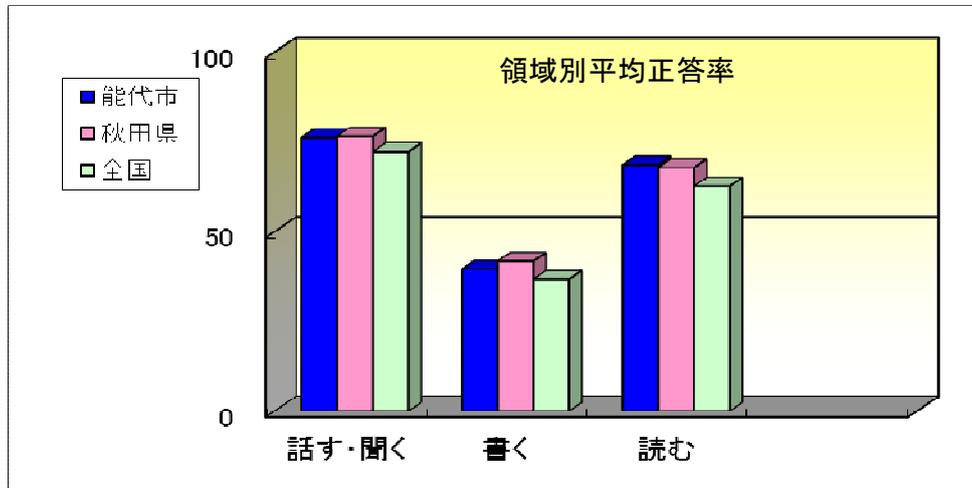


## 指導改善のポイントとして学校での取組

比喩や反復に加えて、省略、倒置、対句などは、小学校段階で具体的な表現に即して指導していますが、「比喩」や「反復」などの名称と結びつけて、表現の技法の意味や用法を繰り返して指導することが大切です。

# 3. 教科に関する調査結果(中国語B)

## 1 中学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



※国語Bに「言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容はありません。

### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を上回っていますが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で秋田県平均を下回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全設問（9問）中、全国平均を下回ったのは1問でした。秋田県平均を下回ったのは、4問でした。



全9問中、全国平均を最も上回っている内容です。

「目的に応じて文章を要約する」



全9問中最も低い正答率で、全国及び秋田県平均を下回った内容です。

「演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く」

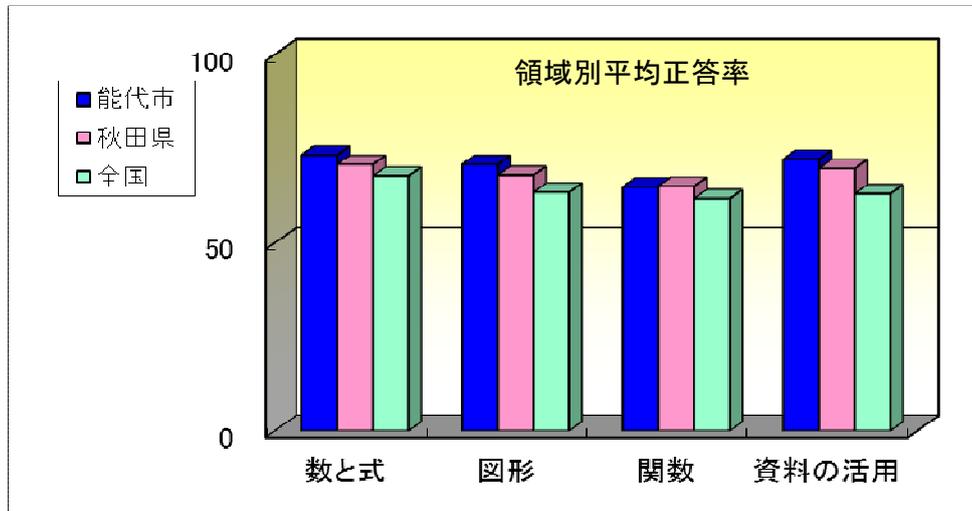


## 指導改善のポイントとして学校での取組

「根拠を明らかにして書く」ためには、自分の思いや考えを繰り返すだけでは相手によく伝わる文章とはならないこと、複数の実例や専門的な立場からの知見を示すことが必要になることを指導することが大切です。

# 3. 教科に関する調査結果(中 数学A)

## 1 中学校数学Aについて(主として知識に関する問題)



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域においておおむね良好な状況です

全ての領域で全国平均を上回っていますが、関数の領域で、秋田県平均を0.2%下回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全設問(36問)において、32問全国平均を上回っています。秋田県平均を下回ったのは10問でした。



32問中、全国平均を最も上回っている内容です。

「さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ」



●全国平均と比較して4.6%下回った設問です。

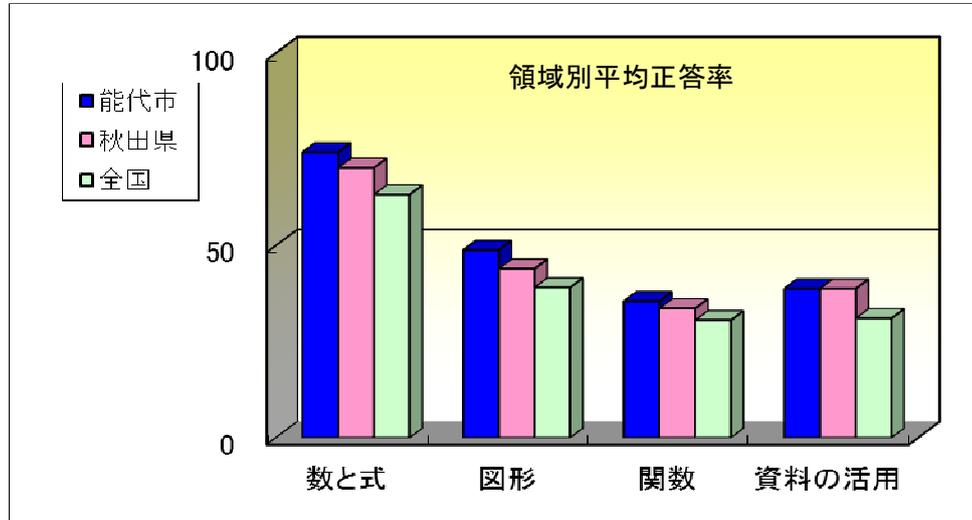
「二元一次方程式 $X+Y=3$ の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ」

## 指導改善のポイントとして学校での取組

文字を用いた式を積極的に活用していくことは極めて重要なことです。文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できるようにするためには、ある命題が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったり、計算したりする学習が総合的に行われることが重要です。

# 3. 教科に関する調査結果(中 数学B)

## 1 中学校数学Bについて（主として活用に関する問題）



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域においておおむね良好な状況です

全ての領域で全国平均を上回っています。「資料の活用」の領域では、秋田県平均と同率でした。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

15問中、14問が全国平均を上回っています。

秋田県平均を下回ったのは4問でした。



記述式の問題で、全国平均を大きく上回っています。  
筋道を立てて考え、言葉や式を用いて表現する力に優れています。



全15問中、全国平均を2.5%下回った内容です。

「中心角の大きさ $X$ と半径の長さ $Y$ の間にある関係について、正しい記述を選ぶ。」

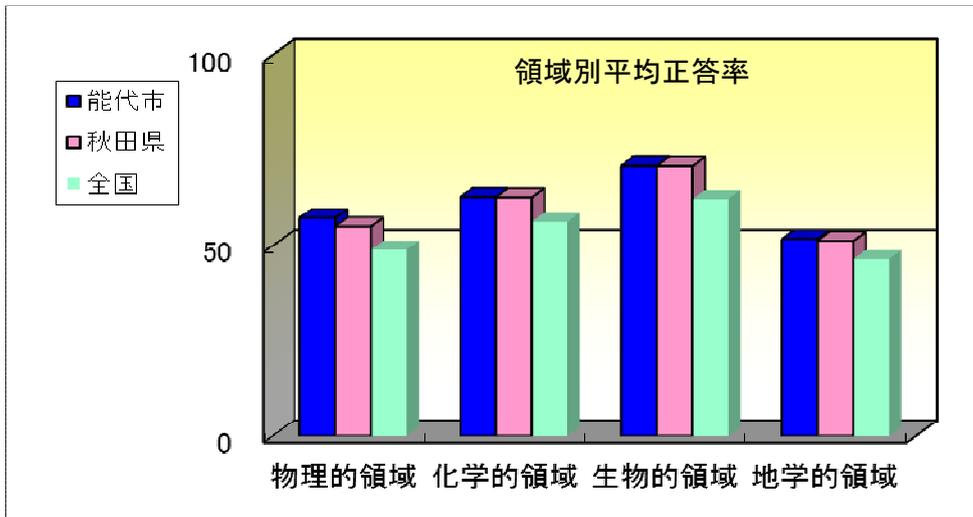


## 指導改善のポイントとして学校での取組

第1学年では、関数関係にある二つの数量について、変化や対応の特徴をとらえるために、表、式、グラフを用いることを学習。第2学年では、一次関数の特徴を、表、式、グラフでとらえるとともに、それらを相互に関連づけることで、一次関数についての理解を深めることが大切です。学習の積み重ねが大切です。

# 3. 教科に関する調査結果(中 理科)

## 1 中学校理科について



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国並びに秋田県平均を上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

25問中17問が、全国及び秋田県平均を上回っています。



特に、全国及び秋田県平均を大きく上回っていたのは、「水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する」問題でした。



全国平均を6.3%下回っていた問題は次の問題です。

「天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ」

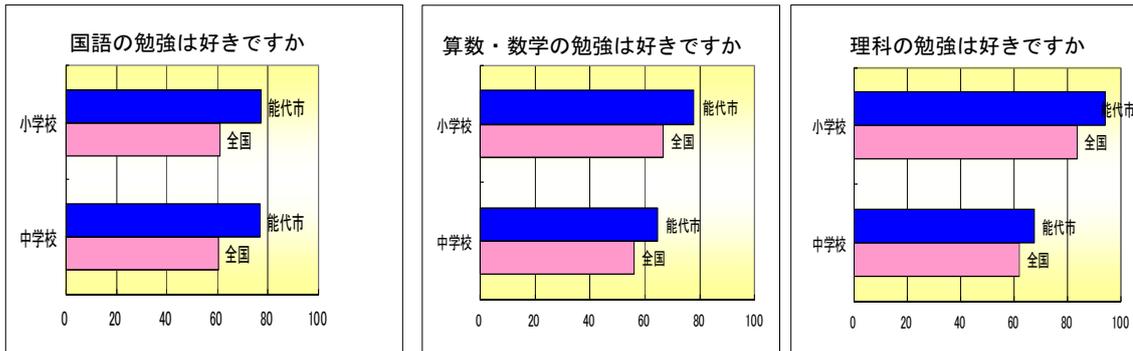
## 指導改善のポイントとして学校での取組

生徒が実際に観測した記録を基に考察させ、各気象要素間にも一定の関係があり、気象要素の変化と天気の変化の間には規則性が読み取れることを見いだせることが重要です。

# 4. 質問紙調査結果(1)

## (1) 学習に対する関心・意欲・態度

国語、算数・数学、理科に対する関心や意欲が高い児童生徒が多い



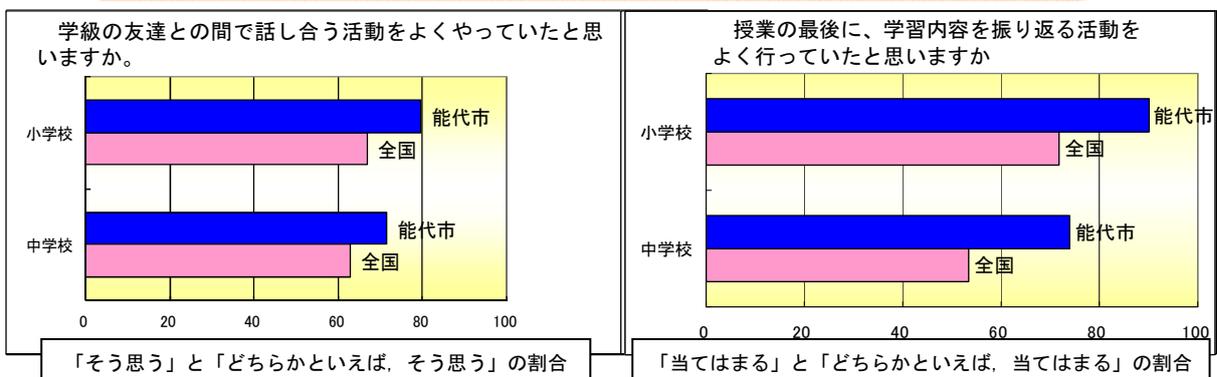
「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の割合

3教科とも、小・中学校で全国平均を大きく上回っています。また、ほとんどの教科で全県平均も上回っています。

特に、小・中学校の国語では、全国平均を16%以上上回りました。今後も、学習意欲の向上、「分かる・できる」授業づくりへ一層の工夫が求められます。

## (2) 学習状況

- ・自分の考えを深め、広げるための話し合い活動が充実している
- ・小学校では、振り返る活動が大変よく行われている



「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の割合

「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の割合

友達と話し合うことを通して、お互いに学び合う学習活動が充実していると言えます。小・中学校ともに全県平均も上回りました。

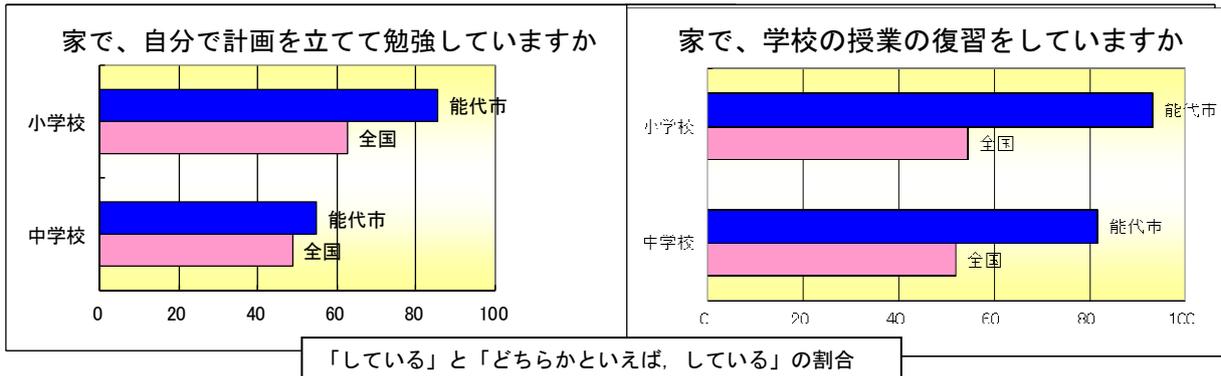


中学校では、全国平均を上回っているものの、秋田県平均より3.8ポイント低く、振り返り活動を意識した授業構想が求められます。

# 4. 質問紙調査結果(2)

## (3) 学習時間

- ・家で、自分で計画を立てて勉強する児童が多い
- ・家で、学校の授業の復習をしている児童生徒が大変多い



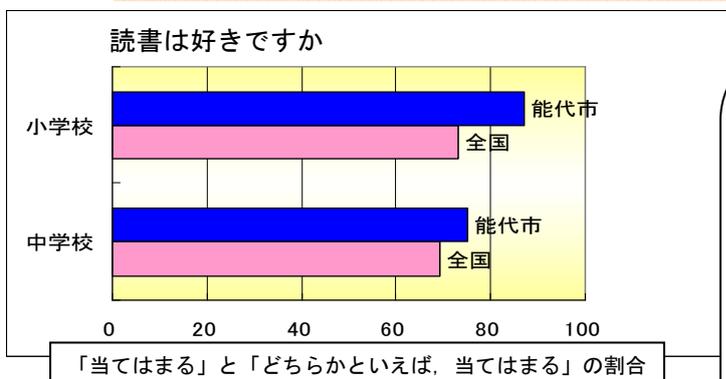
家庭学習は習慣として定着していると言えます。内容は、予習よりも復習が中心となっています。

※「家で、学校の授業の予習をしていますか」の質問において、中学校の肯定的回答率は、秋田県平均を7.7ポイント下回っています。



中学校では、自分で計画を立てて勉強しているかについては、「あまりしていない」「全くしていない」生徒が約半数です。家庭学習への個別指導が必要かもしれません。

- ・読書好きな児童生徒は多いが、中学生になると読書離れが進む



中学校では、全国平均を上回っていますが、秋田県平均と比べると約8ポイント下回っています。中学生になると読書離れが進む傾向は、ここ数年他の調査でも見られます。

### 能代市子ども読書活動推進計

スタートしました！

(平成27年度～

平成31年度)

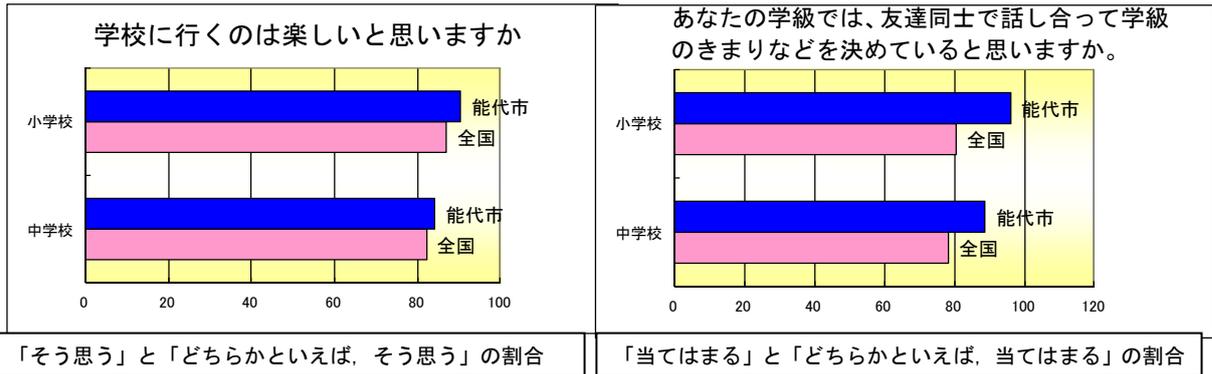


子どもの読書活動を推進するために、発達段階（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に応じた様々な取組が始まっています。平成27年度は全ての小・中学校で「不読率0セロ」を目指しています。

# 4. 質問紙調査結果(3)

## (4) 学校生活

- ・「学校は楽しい」、「友達同士で話し合っている」と思っている児童生徒が多い

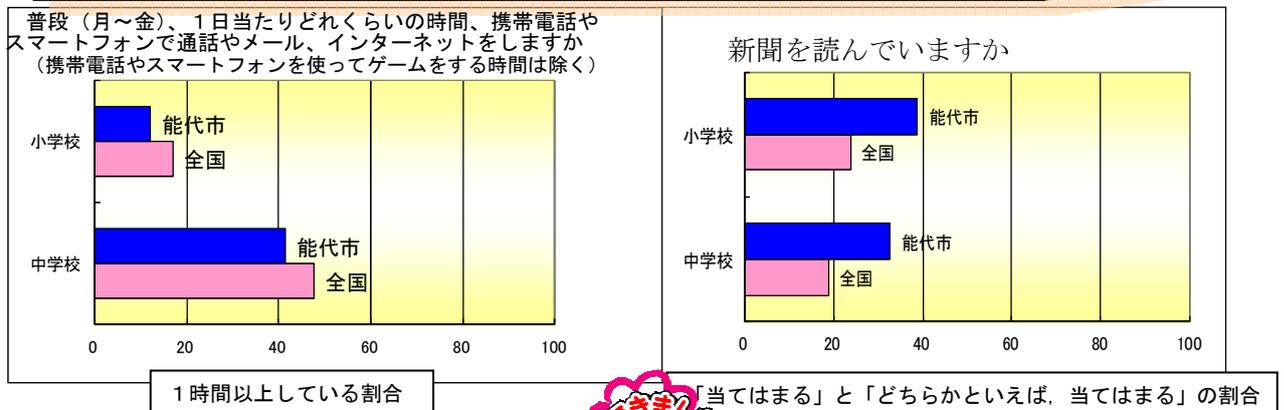


学校での活動に充実感を抱いていることが分かります。ただ、そう思っていない児童生徒へは十分配慮していく必要があります。

「学級のきまり」は一例であり、みんなでよりよい学級をつくるために話し合いを大事にしていることが分かります。

## (5) 基本的な生活習慣

- ・ 中学3年生の約4割が、携帯・スマホを1日1時間以上使用している
- ・ 新聞を授業に活用している学校が多いこともあり、新聞を読む児童生徒がとても多い



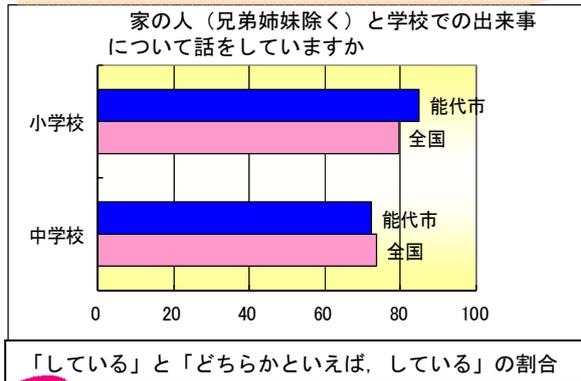
中学3年生の約4割が平日1時間以上使用しています。また、5人に1人が2時間以上使用していると回答しています。今後、使用する児童生徒数及び使用時間が増加していくことが予想されます。

小学校では県平均を9ポイント以上、中学校では7ポイント以上上回っています。NIE実践校を中心に、新聞を授業の中に取り入れる等の実践により、児童生徒にとって身近なものに変わったのだと思います。

# 4. 質問紙調査結果(4)

## (6) 家庭でのコミュニケーション

家で学校の出来事を話す児童生徒が多く、割合は増加傾向にある

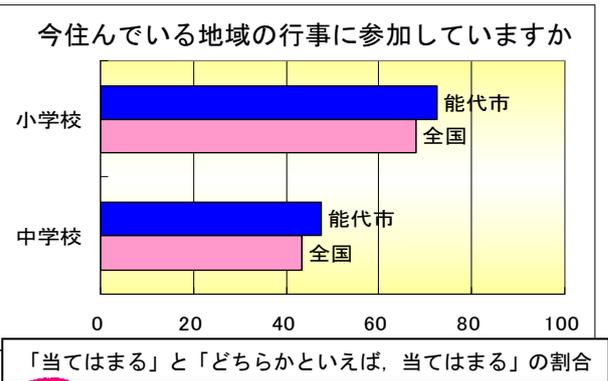


**おつすこしです**

中学校では、全国平均より 1.4 ポイント、秋田県平均より 6.1 ポイント下回っています。家庭でのコミュニケーションが様々な問題解決につながることもあります。ぜひ、子どもと向き合う時間を大切にするよう各家庭に啓発してほしいと思います。

## (7) 地域との関わり

地域の行事に参加している

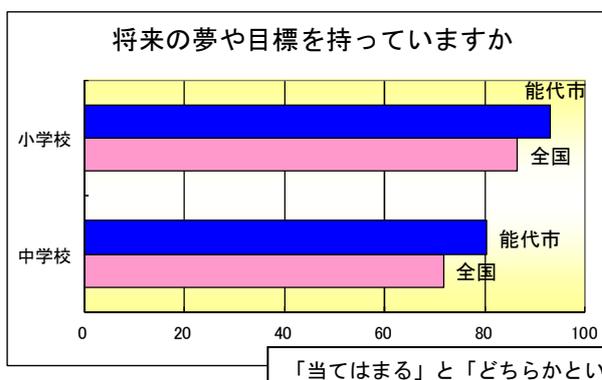


**おつすこしです**

肯定的な回答をしている割合は全国平均を上回っていますが、秋田県平均と比較すると、小学校で 10.1 ポイントも下回っています。ここ数年、同様の傾向にあります。

## (8) 将来に関する意識

夢や目標をきちんともっている

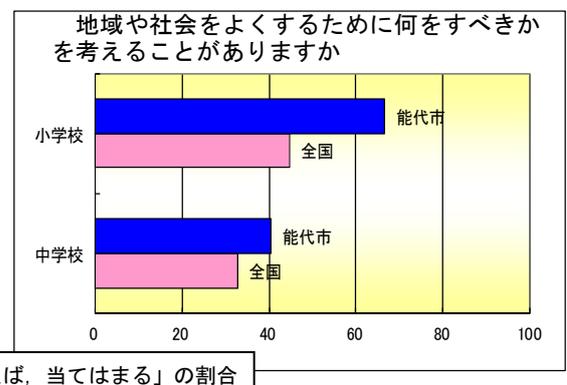


**○**

自分の夢や目標をもつことは、粘り強く努力し続ける姿勢や様々な知識や技術等を得ようとする意欲につながっていきます。

## (9) 社会に対する興味・関心

社会に対する興味・関心が高い



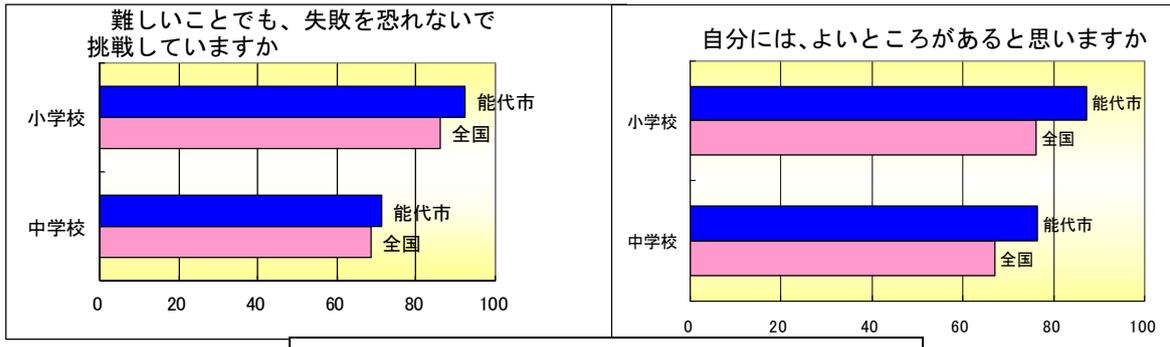
**○**

各校が取り組んでいる「ふるさと教育」が効果を上げていると考えられます。特に小学校では、「総合的な学習の時間」に関する質問項目への肯定的な回答が多く、地域社会について考える児童の増加に関連していると思われます。

# 4. 質問紙調査結果(5)

## (10) 自尊意識

- ・ 難しいことにも失敗を恐れず挑戦している児童生徒が多い
- ・ 自分には、よいところがあると思っている児童生徒が多い



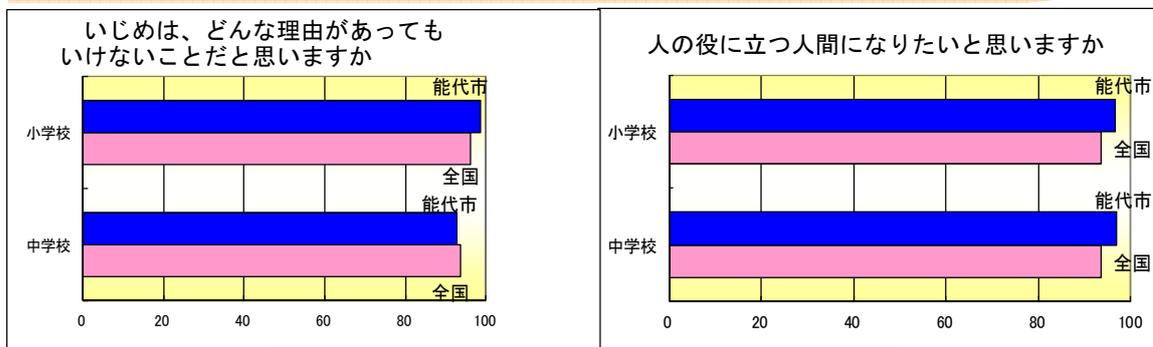
「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の割合

自分に自信をもち、前向きに物事に取り組んでいる様子が見えてきます。

今後も、授業や学校行事等で活躍の場を与え、褒めて認めながら、自己肯定感を高めていく配慮が必要です。

## (11) 規範意識

- ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒が多いが...
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒が多い



「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の割合

中学校で、全国平均より1ポイント、県平均より3.1ポイント下回っています。「いじめはどんな理由があってもいけない」ことについてを心にしみるような指導をしていくことが重要です。

人の役に立ちたいと思う気持ちを大切に、自己有用感を高めるための機会や場を意図的につくっていくことも必要です。